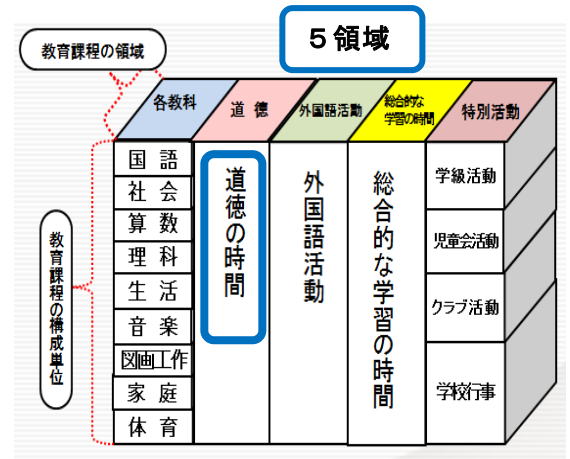


1 道徳における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 教育課程のとらえ

① 「小学校の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育の各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする」
(学校教育法施行規則第 50 条)

- ・ 5 領域(道徳) →教科(道徳の時間) →科目
- ・ 特別の教科 道徳
道徳の時間が 5 領域の 1 つである各教科の教科になるのではない。



(2) 道徳の教科化

- ① 教育再生実行会議第一次提言「いじめ問題等への対応について」(H25. 2. 26)
 - ・ 心と体の調和のとれた人間の育成に社会全体で取り組む。
 - ・ 道徳教育を新たな枠組みによって教科化し、人間性に深くせまる教育を行う。
- ② 道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について」(H25. 12. 26)
 - 1) なぜ今、道徳教育の充実か
 - ・ 道徳教育は、より良く生きる人格の形成を目指すものであり、教育の根本に据えられるべきもの
 - ・ 理念の共有や教員の指導力など多くの面で課題が存在
 - ・ 道徳教育の充実は、今後の時代を生き抜く力を一人一人に育成する上で緊急課題
 - ・ 道徳教育が学校の教育活動全体の真の中核としての役割を果たすよう、早急に抜本的な改善・充実を図ることが必要
 - 2) どのような方向に改善することが求められるか
 - ・ 道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行うとの考え方は今後とも重要
 - ・ 道徳教育と道徳の時間の目標を分かりやすい記述に改め、両者の関係を明確化
 - ・ 数値による評価は今後とも実施しない 他
 - 3) 教育課程上の位置付け →道徳教育の充実を図る
 - ・ 道徳の時間を、例えば、「特別の教科道徳」(仮称)として新たに位置付け
 - 4) 条件整備
 - ・ 「心のノート」の全面改訂 →「私たちの道徳」
 - ・ 教科書(検定教科書)の導入が適当
 - ・ 学級担任の指導が原則
 - ・ 授業改善のための校内研修の充実 ←教員の指導力向上
 - ・ 道徳教育への社会全体での取組を ←学校や家庭や地域の連携強化
- ③ 教科化の検討は 3 回目 →学校教育でしっかり道徳教育を



(3) 道徳教育の充実について

- ① 道徳教育は学校独自での取組が必要→学校のカリキュラムマネジメントの力量が問われる。
「校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成する」 (学習指導要領解説 P. 63)

小学校 道徳

② 全体計画の作成 →具体的に活用できる計画を

「全体計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、児童、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定する」

「道徳の内容との関連を踏まえた各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要がある」<別葉>の作成 (学習指導要領解説 P. 65)

1) どんな児童を育てたいか明確に

- ・教育関係法規 ・時代や社会の要請 ・教育行政の重点施策
- ・学校や地域の実態と課題 ・教職員や保護者の願い ・児童の実態と課題 等から
- ・例)相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育ててほしい。

2) 学校の道徳教育の重点目標を設定

- ・例)人間尊重の精神を生かし、道徳的判断力を高め、道徳性を養う。

↓ 具体的に

人間尊重の精神を生かし、思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする子供を育成する。

3) 重点目標が道徳のどの内容に関わるかを明らかに →道徳の時間の重点内容項目

- ・例)思いやり・・・2-(2)親切 規範意識・・・4-(1)規則遵守, 公德心

4) 重点内容項目の道徳の時間以外の指導を検討 →意図的・計画的な道徳教育

- ・①いつ ②どんな機会に ③どんな指導 をするのか明確化
- ・例)1年生(生活科) 公共施設の学習で「規範意識」
- 3年生(社会科) 廃棄物処理の学習で「公德心」

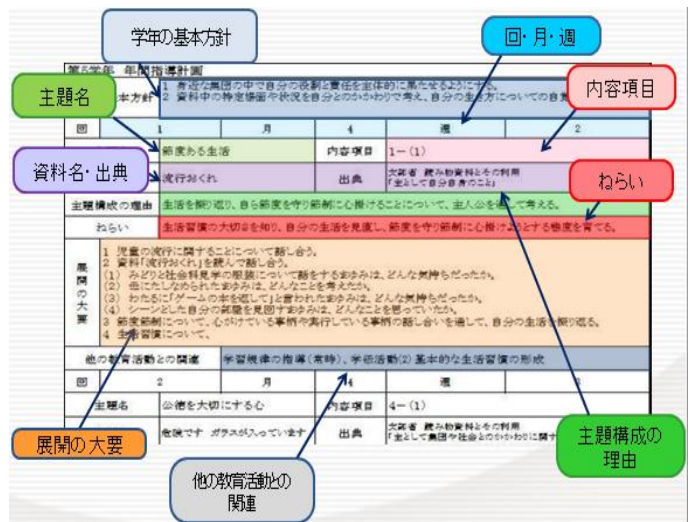
③ 道徳の時間の年間指導計画の作成

1) 意義

- ・6年間を見通した計画的・発展的指導
- ・学習指導案作成のよりどころ
- ・学級相互, 学年相互の教師間研修の手掛かり

2) 内容

- ・指導時期 ・主題名 ・ねらい
- ・資料 ・主題構成の理由
- ・展開の概要及び指導の方法
- ・他の教育活動との関連 等



道徳の時間の年間指導計画例

(4) 「私たちの道徳」の活用

① 趣旨

道徳的価値について自ら考え、行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材

② 特徴

- ・学校の教育活動全体を通じて、また、家庭や地域での活用を期待
- ・学習指導要領に示す道徳の内容項目ごとに「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成
- ・先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容を多く取り上げるとともに、いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などを充実

③ 活用

- ・道徳の時間で ・学校の教育活動全体で ・家庭や地域で ・児童生徒が自主的に